

# 令和4年度 病害虫発生予察情報

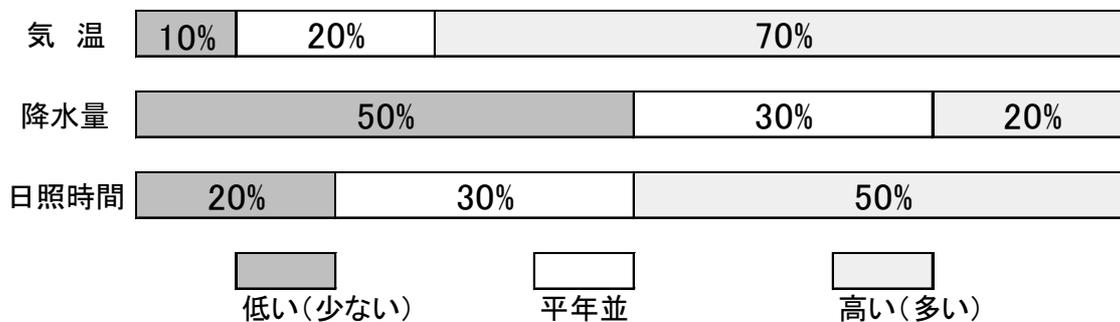
## 発生予報第6号（8月）

令和4年8月5日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない～平常並	
		紋枯病	平常並～やや多い	
		白葉枯病	少ない	
		ニカメイチュウ	やや少ない～平常並	
		ツマグロヨコバイ	少ない～やや少ない	
		セジロウンカ	やや少ない～平常並	
		トビイロウンカ	平常並	
		コブノメイガ	やや少ない～平常並	
		斑点米カメムシ類	平常並～やや多い	
		ハスモンヨトウ	平常並～やや多い	
		黒斑病	やや少ない～平常並	
		シンクイムシ類	やや多い	
		果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ
ナシ	黒斑病			やや少ない～平常並
シンクイムシ類	やや多い			
カキ	ハダニ類		やや少ない～平常並	
	カメムシ類		やや多い	
	うどんこ病		少ない	
野菜	アブラナ科野菜	カキミガ	平常並	
		カメムシ類	やや多い	
		ハスモンヨトウ	平常並～やや多い	

中国地方1か月予報(8月6日～9月5日・広島地方气象台8月4日発表)  
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平常並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、葉いもちの発生ほ場率は4.3%(平常9.4%)、発病株率が1.6%(平常3.4%)と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 県内の一部で発病程度の高いほ場も見られ、全般の発生量は平常並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平常並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）では、発生ほ場率は14.3%（平年14.3%）、発病株率は3.2%（平年1.9%）と平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）に助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(4) ニカメイチュウ（第2世代）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年3.1%）、被害株率は0%（平年0.09%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は7頭（平年51.3頭）と平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は23.9%（平年48.1%）、捕獲数は3.8頭/50株（平年8.8頭）であり、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 7月第5半旬までの予察灯における誘殺数は6頭（平年218.3頭）と平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は54.3%（平年72.3%）、捕獲数は7.4頭/50株（平年30.8頭）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は7頭（平年40.5頭）と平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は6.5%（平年7.5%）、捕獲数は0.14頭/50株（平年0.43頭）であり、発生量は平年並みである。
- ② 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺は確認されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年16.2%）、被害株率は0%（平年2.9%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺は確認されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で発生ほ場率は50.0%（平年56.0%）、平均捕獲虫数は2.89頭/20回振り（平年3.54頭）であり、発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメであるがホソハリカメムシなどの大型斑点米カメムシ類の割合が引き続き高い。
- ② 7月第6半旬までの予察灯へのアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメの合計誘殺数は70頭（平年71.2頭）と平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

注）令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号 参照

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月始めから現在までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で190頭（平年301.0頭）、県西部で136頭（平年174.3頭）と平年並みであった。
- ② 7月下旬の巡回調査では、ダイズほ場での本種幼虫による被害（白変葉）は県東部・西部とも認めていない。西部では幼虫の発生が認められた。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率11.4%（平年10.9%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期は平年並み、7月第6半旬までの誘殺数は178頭（平年64.3頭）とやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

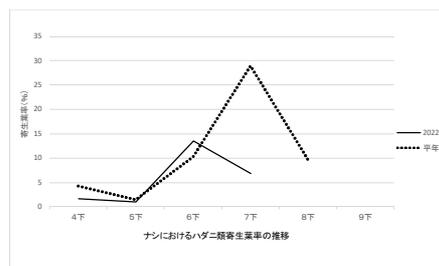
(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率6.8%（平年28.9%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。
- ③ クワオオハダニが認められるほ場も散見される。  
クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので  
薬剤の選定には注意が必要である。



(4) カメムシ類

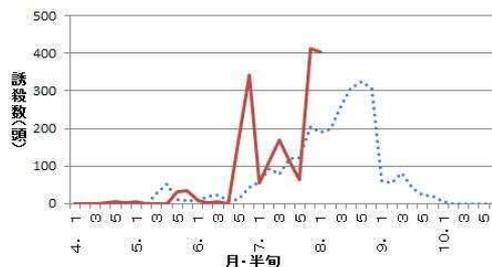
予報内容  
発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

①予察灯（出雲市）での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシの4種果樹カメムシ類の誘殺数は1814頭（平年1079.6頭）と平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注）令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号 参照



第1図 予察灯における果樹カメムシ類3種の誘殺消長(令和4年6月5日)

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生量 少ない

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、発病葉率0.5%（平年5.2%）であり、発生量は平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容  
発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、第1世代幼虫による芽及び果実の被害を認めていない。

②向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容  
発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生量 やや多い

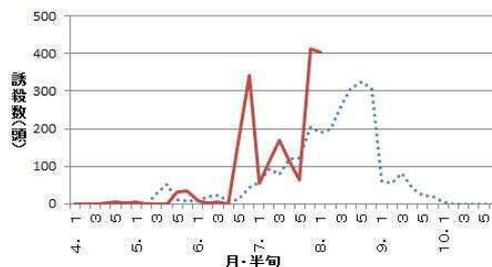
予報の根拠

①予察灯（出雲市）での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシの4種果樹カメムシ類の誘殺数1814頭（平年1079.6頭）と平年に比べてやや多い。

②7月下旬の巡回調査では、カキでの被害果率は2.4%（平年値0.0%）と平年に比べてやや多い。

③向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注）令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号 参照



第1図 予察灯における果樹カメムシ類3種の誘殺消長(令和4年8月5日)

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

①7月始めから現在までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で190頭（平年301.0頭）、県西部で136頭（平年174.3頭）と平年並みであった。

②7月下旬の巡回調査では、本種幼虫の発生を認めていないが、県西部のダイズほ場では幼虫の発生が認められた。

③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数、最終有効年月）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病虫害防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

**島根県病虫害防除所**

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

[https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)